

○委員長（松宮 健治）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

- (1) 函館市中心市街地活性化基本計画（案）について
- (2) 中心市街地トータルデザイン作成業務プロポーザル審査結果について

○委員長（松宮 健治）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、委員会に配付されている資料について理事者から説明を受けた上で調査を行っていきたいと思う。経済部より説明をお願いします。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 資料説明：
 - ①函館市中心市街地活性化基本計画（案）（平成24年12月20日付 経済部調整）
 - ②函館市中心市街地の活性化について（函館市中心市街地活性化基本計画の概要）（平成24年12月20日付 経済部調整）
 - ③中心市街地トータルデザイン作成業務プロポーザル最適提案者の提案資料（平成24年12月3日付 経済部調整）

○委員長（松宮 健治）

- ・ 今、経済部からなる説明があったが、本件にかかわって各委員の皆様から発言はあるか。

○見付 宗弥委員

- ・ 先にトータルデザインのほうから聞きたいと思う。最初に最適提案者の案を見たときに、正直ちょっとびっくりしたというか、こういうデザインが最適だったんだなという感想を持った。まず11社から3社になって、最適の1社を選んだということであったか。ほかの提案者との違い、特にこのハコマチ・ドックが選ばれた理由、これの一番特徴的な部分がどういうところであったのかお知らせ願う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 見付委員の御指摘のとおり、まず募集は12社あったが、実際に提案を出してきたのが11社であった。それを書類審査で1次審査して、我々は当初5社くらいと思っていたが、審査委員がなるべく絞ってヒアリング等を充実させたいということで、点数も3社が上だったので、それで3社をヒアリング対象にして審査してきたが、その中で、実は私どもは一切審査権がないので、審査結果の通知というのはホームページでも公表したが、それをちょっと引用させていただくと、まず、最適提案者が唯一グリーンプラザの通年利用の提案があったということ。要は冬も使えるような提案だったということである。また、イベントではなく、市民活動の触媒として、年間を通じて賑わいがあるだろうと。あと、それがひいては観光客の集客にもつながるものという評価があったところである。ほかは、余りそういう提案がなかったというのが実態だと思う。また、市電とバスの停留所も非常に利便性やデザイン

性に優れているだろうというのが評価された点であり、個々、全部で11社あるので、私も正直いって全部は覚えていないが、こういった点が高い評価になったのかなということ、ほとんどの委員の方が高評価をした結果である。

○見付 宗弥委員

- ・ 私も想像であったが、駅前通のデザインとしては、アーケードは取りなさいということであったので、そうすると、こういう電柱の地中化だとかこういうことしかやりようがないだろうなど。違いが出るとすれば、グリーンプラザの使い方で、それぞれの提案の中の違いが出たのかなとは想像はしていた。一応、今あったように、グリーンプラザの通年利用ということ提案したのはこの案だけだったということはわかった。
- ・ はこだてグリーンプラザ俯瞰パースだが、ここで門型クレーンと、それから支援ドックの、要は個々が一番特徴的だったと思うが、この門型クレーンというのはどういうふうにするのか、ちょっといまイメージできないが、使わないときは黙ってそのまま3基のクレーンがあって、全部可動式になって、使うときにはそれぞれドックのほうに行き行って使うのか、ちょっとこのクレーンの使い方はどのような提案だったのかお知らせ願う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 今の質問が審査会でも一番集中して聞かれた部分で、各委員が非常にどういう形なんだろうと。私どもは審査委員ではないので、そのやり取りを聞いていた部分でしかお答えできないが、まず皆さんシンボルなのかということにこだわった。答えは、シンボルではない、実用品だという。動くんだと。それで、実際にクレーンとして使えるんだと。門型クレーンなので、下にレールがある。レールというか、歯車だが、があって、前後に足がこういうふう動いて、なおかつクレーンなので、横のところにもクレーンをつけて、これも横に動く。なので、足がちょっと動くので、そのエリアは全部どこでも、例えば、普通はテントは人力で組み立てるが、つり上げのテントとかで簡単につくるとかということを提案しているという事業者の説明である。

○見付 宗弥委員

- ・ 使うときはクレーンとして使うが、これは普段は黙ってそのままおいてあると。例えば、高さもあれだが、ブランコにはできないだろうし、クレーンとして使うときはわかるが、使わないときはそのままシンボルではない、オブジェではないが、使わないときはそのままおいてある形か。イベントとして使わないときの、普段はどのようなことになるのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 実はその辺を今、事業者に投げかけている。例えば概算で幾らぐらいかかるのかとか。我々としても下部構造が非常にどうなるのか、例えば子どもさんが、ドックなんかにあったときにはレールにぎざぎざがついている。なので、すごい心配な部分もあって、いろんなことをまず投げかけている最中である。審査委員会ではそこまでの議論はされていないので、明確にお答えできないのと、あくまでもこれは事業者の提案であって、今回のプロポーザルは費用等、例えば採用されて幾ら払うとかがないので、事業費も示してくださいという提案ではなく、どちらかというアイディア募集みたいな部分が強かったので、細かい部分というのはこれからである。ただ、こういった構造物であれば取り外

しというのは多分無理だと思う、恐らく。なので、普段もあるんだろうと。もしこれをやった場合だが、何回も説明したが、これをやると決まったわけではないので、これからいろんな議論をして、最終これが残るかもしれないし、残らないかもしれないということで今お話しせざるを得ないが、見付委員が聞きたいところは私も聞きたい、正直言って。それを今やり取りして、1月早々に検討委員会を開いて、検討委員にも集まってもらい、事業者とのやり取りをしていくということである。また、もちろん費用の部分とかも考えなければならないし、安全性だとか利便性だとか、それがどれだけの効用があるのかとか、いろんな視点検討していかなければならないと思っている。

○見付 宗弥委員

- ・ 参事のほうも、クレーンが普段どうなるか私も聞きたいということであったので、ぜひ検討委員会、それから提案された方と協議していただきたいと思う。
- ・ 私の個人的な感想とすれば、三つも要らないのではないかなと。例えばどっちかに一つだけあって、稼動するときは稼動して、稼動する場合はこちら側だけ使ってくださいよというのでもいいのかなと。さらに言うと、このプランでこのクレーンがなくなったら、何となく目玉というか、一番の、まさにハコマチ・ドックというこのシンボルマークになっているこのクレーンがなくなると、一番の中心がなくなるようなイメージは持っているが、これはたたき台ということなので、理解をしていきたいと思う。
- ・ もう一つ、こちらのトータルデザインの関係だが、一番最初のページで、いろいろ地図の中にコメントが書いているが、ここで一つ、来街者のための駐車場集約再編と一方通行整理という文言がある。そういうふうにして、まちに来る方の利便性を上げるということだと思うが、これはこういうふうにしたいなという段階の話で、駐車場の集約再編といっても、それぞれ地主の方がいるので、そういう気持ちを持つかどうかということもあると思うが、ここに書かれているこの駐車場集約再編と一方通行整理についてはどういう考え方をすればよいか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ これは、先ほど申し上げたが、独自提案ということで事業者がみずから考えてきた提案である。簡単にコンセプトを説明すると、ここも結構審査会で議論になったが、民地を例えば公共が借り上げて、そこは要は駐車場ではなくする。それで、必要な一定の駐車場を公共が、公共ではなくTMOなどでもよいだろうが、がある程度の面積等を集約した形で駐車場を作ると。なので、虫食いの小さい駐車場をなくしていくと。それで、公共駐車場なんかを、駅でいけば1箇所なのか何カ所なのかというのがある。4箇所だったら4箇所を、例えば角角を駐車場にしまうと。なので、地権の問題、それと借り上げ方式で民地の駐車場を吸収していくとか、この事業者は佐賀で今そういう取り組みをしているそうなので、その借り上げた民地の旧駐車場は広場的な活用をするという、そういうコンセプトで駐車場の乱立を防いで、そうすることによって一方通行なんかもある程度解消したり、必要な交通網などがつくれるということなので、審査委員からは非常に難しいよねという御指摘で終わっているところであり、この辺はまだ独自提案の部分なので、我々としてはまず駅前通のあり方、グリーンプラザ、そういったものと電停、バス停、これが一番メインであり、そちらのほうをまず優先して行って、これはある意味、将来的な課題の一つなのかなと、そういう受けとめである。

○見付 宗弥委員

- ・ ただ、そうすると、検討委員会で今その駐車場の、今参事がおっしゃったような民地を借り上げて大規模化していくということも検討委員会のほうで検討していくということになるのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ そこは検討委員会をこれから開いて、どうするのかということだが、優先順位はまず駅前通を国に要望しなければならないので、そちらということである。また、市としてはトータルデザインをつかった中で、来年度はできれば駅前の電停を整備したいと思っているので、それが早急に詰めていかなければならない部分で、グリーンプラザは駅前通が、前の協議会でも御説明したが、国に整備してもらうのには、平成27年着工ぐらいなのかなと思っている。なるべく早くはしたいと思うが、国も予算づけが必要な。それとグリーンプラザがセットなのかなという。順番としてはそういう部分であり、この部分を検討委員会でどういう判断をするのかというのは、まず検討委員会にゆだねて、ただ、優先度の中で3月までに決めなければならない部分で、これを構築するのはかなり厳しいのではないかと。ただ、視野に入れてやるべきだという意見になるのかもしれないし、私どももそれはまず検討委員会に、市も入るので、その場では、審査会では我々は意見を言えなかったが、検討委員会では意見を言える場もつくりたいと思っている。ただ、最終的には検討委員会が決めるわけではなく、そこからもらったものを市で決めるわけであり、それはスケジュール感だとか予算の関係、それと各方面の御意見もちょっと聞いてみたいところであるが、現実的には非常に、正直言って対応が難しい部分だと私は個人的に思っている次第である。その程度でしか答えられない状況で、大変申し訳ないが、御理解いただきたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ そうすると、もう一つ、ここのまちなか居住推進エリア、これも何か同じような状況かなと思っている。というのは、ここの部分でまちなか居住を推進するといっても、かなり空き地もあるし、それこそ住宅というよりも商業の部分が多いのかなというふうには思っているが、この部分もそうすると今と同じような形の、向こうからの提案であり、進めるかどうかというのはこれからの協議になるのかなと思うが、このまちなか居住推進エリアとわざわざ困っているが、この考え方についてお知らせ願う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 現時点では、この部分は一切事業者とも話をしていないというのが実態で、あくまでも独自の提案であり、例えば我々も前計画で借り上げ市営住宅等はこの地区にかなり充実させている。かなり資本も投下している。この地区が市内で唯一人口がほとんど減っていないという自負もあり、その辺もあり、今後事業者ともいろいろ詰めていく。ただ、何回も言うが、これはあくまでもたたき台であり、決まったものではないし、全部を検討するかどうかは今後の課題ということで、この場はおさめていただきたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ こっちはトータルデザイン、当初、参事のほうも駅前通の整備、それからグリーンプラザの整備ということで、そこがメインのような形でこの委員会あるいは協議会でも話をされていたかなというふ

うに記憶はしている。それで、こちらの中活のほうに入っていきたいと思うが、例えば今のこの駐車場の再編だとか、この辺をまちなか居住推進エリアにするというのは、これは中活の中ではそういう取り組みも整合性の問題等で、例えばこの部分を駐車場にするだとかということは中活のほうに入っていたか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ いや、入っていない。考えてないので。

○見付 宗弥委員

- ・ そうすると、入っていないが、その整合性がとれないということにはならないか。例えば、こっちには入っていないので、この部分はもう最初から検討するつもりがないと。検討する必要がないということになるのか、いや、こっちはこっちでこうして上げてきているが、中活のほうには入っていないと。ちょっとそのあたりの整合性がとれないのではないかなと思うが、もう一度よいか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 事業者からの提案と計画で整合性がとれなければならないということは基本的に考えていないし、あくまでもそれはまだ事業者の提案であって、決まったことではないし、もし仮に、今ここで私も明確に言えないが、今後の展望なので、3月までいろいろやらなければならない部分もあり、各般の意見ももらわなければならない。それが必要だとなれば、追加でこれを修正すればいいだけの話だというふうに認識しており、ただ、それには、先ほども言ったが、予算であるとか、例えばこの中活計画は5カ年で達成できるものを載せていかなければならないというところがあり、できる、できない、あるいはやる必要がある等の判断は、今後していかなければならない。例えば、同じことが実は国にやっていただこうと思っている駅前通の整備はここに入っていない。まだ決まっていない。あるいはA街区も入っていない。事業者が決まってないので。そういう段階でも進めていかなければならないと。それは北海道新幹線の新駅が3年後に来るという今のスケジュール感の中でやっていて、すべてががちがちで、すべてがクロスでびたつとはまるというものではなくて、今はここまで、次はどうするということで考えている。ローリングなので、まち3と同じような形で、5カ年、必要な修正、追加等があれば対応していく。ただ、それも財政的な限度もやはりあると思うし、市民の意見も聞かなければならないということで、そういうことで理解していただきたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ 私はいまいちちょっと納得できない部分があるが、そうすると、例えばトータルデザインでは松風町のバス停だとか駅前の電停のデザイン、こんなのでどうだろうかということで出ているが、そうすると、これは今後ここだけではなく、中活の中でいろんな電停、バス停の改修をしていく、先ほど基調のデザインになるだろうということはおっしゃったが、そうすると、そういうここを出てきたデザインが、拘束するという言い方はあれだが、これが中心になって、ほかの電停、バス停と統一感を出していくという意味では、そういう意味での基調となるデザインだという認識でよいか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 私、先ほどそういうことで説明したつもりである。

○見付 宗弥委員

- ・ 基調になるデザイン。当初、駅前はこの部分の話ということで、ちょっと記憶が定かでないが、ここはこことしてやるが、ほかの部分のデザインを制約するものでない。まったく違うものではないが、制約するものではないという当初の話ではなかったかなと思うが、私の記憶違いか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 前回の委員会で私が説明したのは、駅前通はトータルデザインということでコンセプトを決めて整備していきたい。その中で、ふさわしい電停やバス停、あるいは証明柱だとか、そういったもの、あるいは歩道等の色調、素材感、そういったものをやはりトータルデザインでやっていきたいということで事業者の提案をしていただいた。ただ、電停、バス停だけはほかの地域でも必要とされているし、正確に言うと電停はエリアに9基あって、これはまだきまったことではないが、ある程度相関性、皆さん誰が見てもこれは電停だなという色調感とか素材感はトータルで必要だと思う。ただ、その中で例えば、まだ決まってはいないが、美しいまちづくり検討会なんかでも、駅前を今考えていこうという中で、市の内部的には、それを、駅前が一番優先だが、五稜郭であるとか湯川であるとか元町周辺にもそういったコンセプトをつくっていかねばならないよねという提案をいただいて、それはその地区でやはり微妙に違うものがあるので、同じものを入れないという話になるかもしれない。ただ、何回も言っているが、現時点での我々の思いとして御説明して、それがコンクリートではないので、例えば私どもは、今9個あるので、できれば統一感のある電停にしたいと思うが、五稜郭はやはり全然違うほうがいいよねという話になるかもしれない。それは今後、私どもがつくったものを皆さんに御提案して、御意見をいただいて最終的に決まるわけなので、あくまでもものの考え方であって、例えば全部が連携、もちろんしないと思う。例えば駅前と元町のあるべき姿はもう違うので、そういうことであるが、電停は統一感を持ちたいと思っている中で、駅前と最終的には五稜郭までずっと電停が9基あるので、やっていこうというのを現時点では考えているところである。

○見付 宗弥委員

- ・ 考え方として、まったく同じデザインで統一感を出すということもあるし、例えばロゴの部分だけは同じ文字を使うが、例えば五稜郭なら五稜郭の雰囲気なデザインだとか、ということの統一感の出し方もあるだろうし、いろんなやり方はあると思うが、そもそもこれを提案したときに、全体、ほかの地域でも使われることになるような前提で提案してないと思う。これはこの部分のデザインとしてどうだということを出しているので、最初からそのほかの地域も使うかもしれないという前提でないと思うが、ただ、言ってしまえば、先にやってしまったから、これに合わせなきゃならないよねというようなことになりやしないかなというふうに心配があるが、そのあたり、ちょっと私もまだ整理しきれないので、今話をしているが、そういうような違和感というか、何かちょっと疑問を今感じている。ちょっとうまく質問できないが、そういうような疑問を持っていますが、参事のほうで何か考えはあるか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ ルールというか、プロポーザルをやる前提では一切そういうことは書いていない。それはあくまでも私たち事務方の基本的な考え方であり、プロポーザルの要綱にそんなことは書いていないし、原案にも書いていないが、あるべき姿というのはこれからいろいろ話があるだろうが、まず駅前来年、

できたらやりたいと思っているので、その姿を見て、いろんな意見がまだあると思うし、五稜郭は五稜郭で地区の方もいて、いろんな意見がある中で、現時点であえて申し上げれば、私どもとしては同じようなコンセプトで、ここが電停だとすぐ見ればわかるような、観光客も利便性があるのかなと。そういう発想であり、もしそれがだめだという意見があれば、それはもちろんその意見を尊重していくということで、あくまでも現時点で詰めているわけではないし、今初めてこういう話もしているの、皆さんの御意見を、こういう場面でも、あるいは市民フォーラムの場面などでもいただき、最終的によりよいものをつくっていけばいいのではないかと思います。なので、私が言っているのはあくまでも最終ではないし、確定しているものではなく、今何を考えているんだという問いに対して、今こんなことを考えているということをお話ししているの、そのように理解していただきたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ 私もトータルのイメージを持った電停、バス停ができるということには何も反対をするものでもないし、ほかの委員の皆さんもいろいろ意見もあると思う。まず、ちょっと腑に落ちないものを持ちながら、次に行きたいと思う。
- ・ 中活の街なか居住の関係である。45ページ、3)魅力ある生活空間案の創出の、街なか居住を推進するための仕掛けづくり、ここでさまざま街なか居住の考え方が書いているが、ここで中心市街地での住宅取得の促進、これは特に何か施策というか、何か取り組みはあるか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 取得という表現でいけば、まず良好なマンション建設を今計画しているわけで、法定再開発事業と優良建築物で供給がなされるということであるし、取得ではないが、街なか居住支援事業ということで中活エリアの中でのいわゆる家賃補助を、これは85ページに書いているところで、住宅系についてはそういったことをいろいろ考えているところである。

○見付 宗弥委員

- ・ これは同僚委員も本会議で質問しているところだが、住宅取得の促進には確かにマンション、WAKO、それから五稜郭にマンションができるということで、それはもう上に入るのかなという感じもする。住宅、マンションの取得の促進、例えば小林委員も本会議で提案していたが、そういうような業者に対する支援等は特にこの中にはないので、そういう意味では住宅取得の促進はなかなかちょっと具体策は厳しいなというふうに思っている。それで、今お話があった街なか居住の支援ということで、68ページ、西部地区ヤングカップル住まいりんぐ支援補助金と街なか居住支援事業、これはそれぞれ内容が違うのか、対象にする町が違うのか、例えば一体にしたり、そういうような考え方ができないのかなと思うが、それぞれ上と下の金額と、あるいは対象の範囲等、それぞれお聞かせ願う。街なか居住の、この中に入っているその制度の関係でも構わない。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 確かに68ページは西部地区ヤングカップル住まいりんぐ支援補助金と書いているが、中活エリアに拡充することを今考えており、ちょっとわかりづらいが、それが85ページの街なか居住支援事業であり、金額等はまだこれから予算要求であり、今ちょっと私も何とも言えないところである。

○見付 宗弥委員

- ・ そうすると、考え方としては中心市街地内に子育て世代がより住むようにということで、対象としては子育て世代で中心市街地に住む方という考え方か。その対象となる町は、これは中心市街地全部の町ではないのか。ちょっとそのあたりをお願いする。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 85ページの街なか居住支援事業は中活エリアの全区域を対象としている。ただ、そのほかに従来のいわゆるヤングカップルと言われる事業の対象地区も包括する形で考えているということである。ただ、それは中活の部分ではない。

○見付 宗弥委員

- ・ その内容等は今後ということだが、子育て世代に特化すると。子育て世代以外はこの対象にならないということではどうか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 大変申し訳ないが、ただいまの質問に私が答えることができない。というのは、私の所管事項ではないし、私に決定権があるものではないので、大変申し訳ないが、個々具体の部分はお答えできないということで御了承願いたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ そういう制度が入っているが、担当部が違うということではなかった。その担当に改めて聞きたいと思う。
- ・ 最後にはこだておもしろ館の話である。79ページ。従来は子育て世代活動支援プラザの中に入っていたが、今回は新しく別項目をつくったということである。中を見ると、広く市民や観光客がさまざまな分野の情報等をバーチャルで体験し交流を深めるスペースということだが、具体的にどんなスペースになるかというイメージはあるか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ あくまでもイメージであり、今実はいろんな企業などに打診したりして情報収集している最中で、これはまだ26年度着工事業で確定しているものではないが、本当にそれが入るかどうかはこれからの話だということでは御理解いただきたいが、例えば、今のバーチャル技術というのは非常に進んでいて、例えば三菱重工さんやソニーやパナソニックが首都圏でいろんなそういうバーチャル技術、要は展示物ではない、例えば床が、電源を入れると、ゲーム機械みたいになって、バーチャルの、要は仮想のゴールがそこに浮かぶ。例えばそれを人間が蹴ったりすることにより、その玉が動いていくというのがバーチャル技術である。あと、まだちょっといろいろあるが、例えばスクリーンが前にあって、その前で体を動かすと、自分がその空間に入っている映像になる。実体はここだが、カメラで写すことにより、その映像の中にその人が入るというのも、いわゆるAI技術なんかの転用だが、そういった技術をいろいろ使って、元々は子どもだけということも考えていたが、平日の日中は子どもさんは勉強しているので、来れないので、また駅前なので、観光客の方なんかは1時間とか2時間楽しめるものにしたい。バーチャルの一番いいのは、例えば一つのそういう機械があれば、ソフトを入れ替えるとどんどん変えられるので、例えば修学旅行生がたくさん来たときには、ボタンを押すと修学旅行生対応、要は函館の歴史あるいは水族館的な、バーチャルであれば函館の海というのを映像で流せる

ので、極端な話、AIでやれば、その中で自分が潜るようなこともできる、疑似体験だが、そういったこともできる。修学旅行生なんかも楽しんでもらう。あるいは夜間はやはり子どもさん、小学校とか中学生の方は来れないので、それはどちらかというところとちょっと明かりを暗くして、少し遊べるみたいな、観光客が時間を時間をつぶせる。子どもさんが多いときは、学習なんかもちょっと要素を入れて、函館の歴史を学ぶとか、例えばバーチャルなので、箱館奉行所が建っていく姿というのをその前でいろいろ見れるわけである。そういったものを組み合わせて、回るような回廊にして、いろんなものを置いて楽しんでいければ、ソフトを変えれば、いろんなバリエーションができるということで、ただ、それはいろんな企業に参加を申し出ていこうと思うが、例えばトータルでどう制御するのかとか、いろんな課題が多いので、今は幾つかのところには、それができると思うという回答もいただいているが、もうちょっと詰めていって、どこかの段階ではお示ししていきたいと思っている。あくまでも、まだ私どもの頭の中の部分で、そういったことで考えていきたいと思っているが、費用だとかも、これから詰めていかなければならないことが結構あり、たくさん、いろんな盛りだくさんな計画なので、なかなか至っていない部分もあるということで御理解いただきたいと思う。

○見付 宗弥委員

- ・ いまいちよくイメージできないが、何かおもしろそうだなというので、そういうバーチャルリアリティというか、函館にはそういう施設がないので、そういう施設を目指しているということでわかった。
- ・ いろいろまだもやもやしている部分はあるが、また改めて別の場で質問していきたいと思う。

○井田 範行委員

- ・ まず最初に基本計画。前回の原案でもいろいろと聞いた部分もあるので、今回は変更点、さらには追加部分を中心に何点か聞かせてもらいたいと思う。
- ・ まず最初に聞かなければならないのが数値目標の部分で、端数を取ったとか、あと国のほうの指導だという話だが、私はこういう数値というのは当然、過去のデータをベースに、こういう事業をやることによってこうなるだろうと。積み上げた中での結果でもって、当然目標を立てていると思うが、それを国がこうしたからといってころころ変わるとするのは非常に違和感を感じるが。端数を取った部分はまずいいが、1,000人くらい減っているところがあるが、これはやはりそれなりの根拠に基づいた中で積んだものを、国が言ったから下げますよという話には私はならないと思う。これは質問しない。
- ・ これは前回のときも言ったが、今回新たに電車の関係でいろいろと詳しいデータということで出されて、この辺は非常に評価できるのかなと思っている。具体的な施策の部分も、我が委員会で調査項目としていた電車事業の活性化等々の項目も盛り込まれ、非常にいい形に進んでいるのかなというふうに考えている。電車事業の部分は電停含めていろいろと対応されているが、やはり問題は、私はその地域にやはり人を誘導するとなると、動線の部分の中では、電車ももちろん重要だが、前に申し上げたが、バスの路線の問題。ここにもちょっとは書かれてはいるが、やはり大門・五稜郭地域に人を呼び込むためのバス路線というのが、本当に今の形でいいのかどうなのか。その辺の取り組みが書かれてはいるが、やはり協力に進めていかなければ、新幹線の部分とかいろんな部分はちょっと書か

れているが、やはり電車と同じように、あえて言うなら、私は電車の目標も大変評価できるが、逆にバスもあってもいいのではないかぐらいな気持ちもあるが、その辺についての考えをまずお聞きしたいと思う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 私どもは電車しか書いていない。バスが本当は大事だということも同じ認識がある。ただ、バスについてはことしなかなか見直しも、進めて、着手はしているが、去る18日に提示した函館市まちづくり3か年計画の中では、30ページ、持続可能な地域公共交通の確保策の策定を25年度に実施するという事で今、まち3上はなっていて、企画部の所管で今鋭意やっていくということであり、これも本来はこの計画に当初から盛るべきものだというふうに認識しているが、そちらの策定を待って、必要な時点修正、追加等をしていきたいというのと、当然、新駅との関係であるとか、生活路線も含めていろんな問題がある。あと、バスの路線網が非常にわかりづらいという御指摘も近年多いわけであり、決して、我々ももちろんバスと電車の連動性だとか、そういった情報も出していこうということであるが、そちらのほうのバスのほうが若干まだ先になるということで、ちょっと打ち出せない状況にあるが、視点としてはそこは強く私どもも必要性を思っているし、できれば次回の見直しでその辺をうたっていきたいと思っている。ただ、再編自体が例えば計画づくりの、中活の中で、バスの路線の再編自体で何か国の支援措置が必要だとか、そういった部分があるのかどうかもちょっと今何とも言えない部分があって、どちらかというと、本来計画はそうではないが、例えば民間事業なんかの国の支援措置がどうしても必要なものは、はつてもずつても入れなければならない部分があるが、そういった大事な要素ではあるが、まだちょっと入れられないものもあるということで、ローリングで計画は5カ年間やっていくということであり、なにとぞ御理解いただきたいと思っている。

○井田 範行委員

- ・ 今後、企画部のほうでもって動くということだが、企画部のほうはまち全体の話で当然、軸足がそうなので。ただ、こっちは中心市街地活性化という分野の話になると思うが、例えば、この中心市街地の中で電車とバスの差別化とか、いろんな提言はできると思う。ここはバスが走ってはだめというわけではないが、ここは電車。その代わり、こういう形でもってバスとか。その辺はぜひ今後策定するものに向けて、中心市街地の軸足を置きながら、ぜひ積極的に発言して行ってほしいなというふうに考えている。
- ・ 今回の追加項目の中で、これも非常に評価している空き家の部分。これも、これまでも本会議、委員会の中でいろいろ空き家対策ということを言われている。非常にこの内容が、言葉はよくないが、18ページだが、この状況をつかまえて具体的に何をやっていくんだという部分がやはりちょっと弱いのかなという感じがしている。空き家というものにも私は二つの定義があるのかなと思っている。一つが、利用可能。要するに、ある程度の安価な単価でもって利用可能なものと、建て替えたほうが早い利用可能なもの。ということは、逆に言うと、もう使えない。使えるものと使えないものというのがあると思うが、当然この推移というのは使えるものと使えないものを含めて書かれているというふうに感じている。使えるのものは今までもいろんな、都市建とかでもって働きかけしているということだが、問題はその使えそうもない、もう壊して撤去、新設しかないようなものも、やはり特にはこ

の大門・駅前地域というのはかなりあるのかなと私は認識している。その辺の対応、私は駅前通、グリーンプラザ、すごくきれいにして、例えばWAKOとかいろんな場所でもって、A街区なんかもいろんな施設をつくって、お客様が来るのも大事だが、最終的に地域活性化というのは民間のほうがやはり動いていかなければ、やはり本当の活性化、行政は当然主導してレールを引いてくれるのがいいので、それをうまく使っていくというのは、やはり民間側がどんどんどん動いていかなければ、私は中心市街地の活性化というのは当然成功しないというふうに感じている。そのためには、やはり今、大門・駅前地域の場合では、やはりその、廃墟と言ったら失礼になるのかもしれないが、活用が難しいような建物に対しての何らかのやはり、これも分野違うのかもしれないが、当然働きかけ含めて、これは逆に言うと、ここにしっかりとりたい込んでいくぐらいの気持ちがあってもいいのかなと思うが、いかがか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 思いは確かに、私も経済部の次長を3年、中活の参事を2年やっていて、実体を見ているし、なんとかしなければならぬと思っている。ただ、取り巻く状況の中で、特に私どもの基本計画は、本来そうであっていかどうかという議論はあるが、どうしても表通り、まち歩き viewpoint、観光客誘致、景観向上の部分から、駅前通など、あるいは五稜郭も十字路中心という施策をまず優先的にとっているというのが実情であって、例えば裏までやるとなると、簡単に言うと事業者がバブルの頃に抱えた、莫大な金額で買った土地を抱えて、にっちもさっちもいかない状況があるわけである。例えば、そこに私が仮に行って、なんとかしてと言うと必ず、では10億円くらい出してくれるかという話になる実体があって、核となるもの、あるいは核となる通りについては必要な支援措置をやっていくのは、もちろん当然必要であるが、それをエリア全体あまねくというのはなかなか難しいというのが現状である。その中で、優先度の中で対応すべき部分というのをつかまえていかなければならぬ。ただ、井田委員がおっしゃるところが、実は現在、中心市街地の活性化、経産省のほうで有識者会議をやっていて、ちょうど中活支援法ができて5年たっていて、見直しがあって、まさしく中活の最大の阻害要因は空き店舗や空き地の問題だという有識者会議からの話があって、今まだ決まっているわけではないが、経産省のほうでは、商業地に長期間空き店舗を持つ土地所有者らに勧告や課税措置を講ずるといったことも今検討しているやに聞いており、なかなか地方自治体ではできない部分で、それが法になるのか、どういうものになるのかもちょっと推移を見極めていって、これは同じようなことが従前から市議会でも多々議論されており、ただ、なかなか民地で民間の部分というところで、立ち入ることが難しい部分もあった、また、どちらかという市は、行政としてはインセンティブの部分を出すであって、ペナルティというのはなかなかこういう私有財産の場合はかけられないという例も多いので、ただ、私どもも意識としてはあるが、まず、どうしても認定に向けたスケジュールの中で必要な対策、本来、今の部分というのは非常にがりがり検討しなければならない部分であるが、できていないというのも認めますので。そういうことで、ただ、なかなか私どもも、ちょっと泣き言を言ってしまうが、4人のスタッフで頑張っているものなので、なにとぞ御容赦願いたいと思う。

○井田 範行委員

- ・ これは、最初からその部局だけでできるはずがない。方針を示して、こういう方向に行くべきだ

というのは、そこでやっていただいて結構だが、それ以外はやはり、そこをきちんと基本計画の中でできればたいこんで、市役所全体でやはり動くような取り組みをしていくということも私は重要なのかなというふうに感じている。それで今、参事のほうからいろいろと、確かに私も函館が長いのでイメージはわかるが、地主の問題とかいろんな問題はあるが、ただ、お願いしかできないという部分もあるが、それはまだはっきりしているもので、いいと思うが、誰のものかわかってはいるが、どこにいるかわからないとか、いろんな複雑な関係のものもあるやに聞いている。私は、大事なことは、そこがやるのではなくて、やはり空き家対策ということで、やはりこういう基本計画にしっかり盛り込んで、これは都市建設部なのか財務部なのかよくわからないが、そういうところでもって、やはりお願いだけではなくて強制的に、先ほどインセンティブって言うていたが、ペナルティという選択がないわけではない。具体的に言うとちょっといろいろとハレーションを起こすので言わないが、そういう選択を視野に入れながら、やはり関係部局と、こちらの仕事は本当は基本計画にばっちりうたいこんで、やってくださいという形がいいのだろうが、それもちょっと刺激的になるのかもしれないが、やはりそういう部分を関係部局にしっかりとアクションを起こしていただきたいな。まずは、そのためには僕は大事なことというのは、使える空き家か使えない空き家か。これはなぜ活用できないのか。やはりそのぐらい分析しなければ、一口に空き家と言うが、たくさん種類があると思う。動かない空き家もあるし。そういう部分はまた、実態調査という部分では関係部局にお願いはできるのかな。それからいろんなものが見えてくると思う。地主と上が違っているとか、いろんな形になってるというものがいろいろ出てくると思うので、その辺も、ちょっとこれ各論の議論に入りすぎてるのかもしれないが、そういう形の中で協力に取り組んでいただきたいと思うが、いかがか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 私はいわゆる市内の5大地主と言われる方とすべて会ってきた。お話もした。それで、思いはわかるが、非常に難しいという思いをますます強めたのも実態である。また、民地で民間の施設あって、私としてはできれば余りペナルティ的なことはとらないほうがという思いもある。ただ、それは状況によって、市民の方の御意見があるのであれば、と思うが、そうではない意見の方がどうも私の感じるところは多いのも実態である。また、現実的に市の財政状況を考えると、打つべきことを打てないという状況もあるという判断もあり、思いは同じだし、所管の部局、具体的に言うと都市建設部も非常にその辺の思いは強くて、全市ではないが、いろんな箇所でもものは打っているとは思いますが、なかなか大規模にやっていくというのは非常にエネルギーとお金がかかるのかなと。そこが一番である。これは個人的な意見だが、やっても徒労に終わるのではないかという思いも職員にはあるわけで、では何を優先していくのかという部分もあり、本当は違うと思う、全体がきれいになっていけばいいと思うが、先ほど井田委員もおっしゃったとおり、商業者の方とか民間の方が一緒にという思いにかけられないのかなという部分もあるし、ただ、市長がよく言うのは、駅前通とかきれいにしたり、WAKOとかいろいろきれいになっていくと、隣の地主さん、実際、私どもにも今相談に来ている例がある。自分のところも何とかしよう。そういうことが段々広がっていく、あるいは中心市街地に少しずつ人が戻ってくることによって新しい店舗ができるとかっていう経済活動の中で、当然種地の問題なので、土地があるということは新しいことができる可能性があるわけなので、そういうところに

どうやって我々はインセンティブ、この計画をつくること自体がある意味、うまくいった場合は大きなインセンティブになると思う。直接的なペナルティというのも確かに手法としてはあって、先ほどあえて国の方針というか考えを述べさせていただいたが、必要な手を打つことによって、例えば電車どおりとかは電停が増える、あるいは観光客が来る、市民も回遊するという流れの中で、当然経済活動なので、新たな流れも出てくるというのが市長の施策であり、私どもはその部分にかけていきたいということで計画をつくっているということで御理解いただきたいと思う。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 一応ずっと議論を進めてきたが、所管外にわたることも結構増えてきたと思うが、それは詳しくは一般質問等で掘り下げていただきたいと思うので、よろしくお願いします。

○井田 範行委員

- ・ ちょっと入り過ぎている。総論で行く。
- ・ ただ、今の問題というのは、更地はいい。更地ははっきりしていると活性化して、人が増えてくるとビジネスなので動くと思う。ただ、問題は動けない廃墟というか、これはどうしようもない部分なので、ぜひそれは働きかけをしていただきたいと思う。
- ・ 前回のときにスケジュールを出していただいた。これを見ると、何か協議会の関係のスケジュールを見ると、かなり遅れているようなイメージを感じるが、今後、当初では1月に内閣府に申請し、3月に認定。この辺の流れが変わらないのかどうかという確認と、今、政権が大きく変わったが、それによって何か影響がないのかどうかあわせてお聞きしたい。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ スケジュールは素案のときに確かに御提示したのが、11月には基本計画が決定ということで、ちょっと1カ月ずれ込んでいて、大変申し訳ないが、1月に申請、3月に認定ということは今、私どもも内閣府と協議している。ただ、これはちょっと内閣府も各省庁との協議をやっているように聞いているが、その辺がちょっと今、政府も政権交代があり、予算要求がこれからとか、地財計画もこれからという状況の中で、ちょっとどうなるのかというのはあるが、来週ちょっと私も内閣府、国交省、総務省等に出向いて、お願いというか、認定よろしくということで行ってくるので、その段階でちょっと確認はしたいと思っているが、事務的な段階では内閣府とは非常にうまくいっている状況であり、あとスケジュールは政治的な状況で若干変わる可能性はないわけではないが、基本的に今ある法律に従っての申請、認定であって、政権交代の影響で、例えばこんなものはもうやめるとか、そういう議論にはならないのは間違いないところであるし、3月認定を目指している都市は函館以外にも10箇所程度あるので、それは特に変更があるような連絡もないし、来週ちょっと出向いて回ってくるので、必要なことはきちんとやっていこうということで考えている。

○井田 範行委員

- ・ ぜひそういう形で、政治状況がちょっと今動いている部分があるので、遅れるのかもしれないが、一つ連携をよろしくお聞きしたいと思う。
- ・ 次にトータルデザインの関係で、これも余りこまかいことを聞くとまたいろいろあるので、まず確認したいのが、私は前回のときも聞いたが、10年くらい前に4.5億円かけてグリーンベルトを整備した

よねと、そのときのやり取りの中で、一定程度それが無駄にならない形の中で今後進めていきたいというコメントだったが、これは現段階でたたき台的なイメージだとは思いますが、仮にこの流れで進んだ場合に、10年前の4.5億円の整備のお金というのは有効に活用されるという認識か認識でないかだけお聞かせ願う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 私も実は、前回も同じ答弁をしたが、グリーンプラザの予算を査定させていただいたという経過があり、気持ちは十分わかるし、決して、一部改修等があるが、効能を増進させる場合は補助上、起債上も問題ないわけであって、そういった視点で対応していくことは間違いないので、私としては無駄にならないというふうに考えている。ただ、先ほどから御意見ありましたとおりと、最終案というのはこれからある程度詰めていくし、グリーンプラザは25年の着工ではないものであって、期間的にはまだ十分検討する期間があるわけだし、もちろん広く意見をいただいなければならぬ部分であって、そういったことを肝に銘じて職務に当たってまいりたいと考えている。

○井田 範行委員

- ・ 本当は僕も中のことをいろいろ聞きたかったが、先ほどの見付委員とのやり取りを聞いていると、たたき台だという話でもって、前に進まないの、逆に、これは先ほど、これからいろいろ聞いてという話はしているが、いろんな意見を聞いても、ある程度形が見えないと、きっと聞かれても答えられない。なので、その進め方というのはどうなのかなと思うが、今後どの辺になると具体的に見えてくるのかというのは逆に聞きたいぐらいだが。これは何ですかと聞かれたときに、こうなんですよと答えられる時期を含めて、このトータルデザインのスケジュールをお聞かせ願う。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 今、トータルデザインは、先ほども申し上げたが、概算事業費も示されていないので、主だったものが大体幾らぐらいかかるのかとか、そういったことは全部、今、事業者に詰めてもらっているし、審査委員会等も質問事項というのも多岐にわたっていて、それについて今、投げかけている。それをまとめ次第、1月に2回ほど検討委員会を開いて、2月22日にちょうど市民フォーラムがあって、その場である程度、その時点での示せるものというのをお示しして、2月22日に基本計画の周知とプロポーザルもちょっとその場でスクリーンとかを使って説明していきたいと思う。概算額もそのくらいまで。ただ、概算額も一番優先しているのが幾つかの部分があって、どこまで出せるかというのがちょっと今何とも言えないが、少なくとも電停、バス停、あるいはグリーンプラザ、グリーンプラザは超概算かもしれない。おたくの提案で仮にやったら幾らぐらいかかるのかという部分ぐらいはやりたいと思っている。ただ、駅前通はまだそこまで至っていない可能性がある。これはちょっと材質等でかなり変わってくるし、照明柱もまだ具体的なものがない中で、早急にちょっと詰めて、たたき台がないと、事業者のほうからたたき台を出さないと我々も検討できないというのは同じで、3月までの工期の中で、ぎりぎりやっていきたいと思っている。それともう一つ、2月22日は市民フォーラムなので、きょうの雰囲気であれば当然、当委員会にも御報告をさしあげたいと考えている次第である。

○井田 範行委員

- ・ 2月の後半ぐらいにそれが出るということで、そこでもっとこまい話をさせていただきたいと思う。
- ・ もう一つ、二つ確認したいのが、市長のコメントでこれまでグリーンプラザの部分はスペイン広場のようなイメージということでかなり強い思いを持っているようだったが、私はスペイン広場をよく承知していないが、ざっくりどうなのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 私も1年半、グリーンプラザのスペイン広場については市長と何回も話をしたが、スペイン広場のような観光客が集まって、写真を撮る場所をつくれというのが市長の指示で、スペイン広場をつくれというわけではない。いろんなこと、ひじかた公園だとかいろんなのを言っているのは、例えばそうすることで観光客、市長ももちろん400万人以上の観光客が必ず行く場所と言っているが、100万人とかでもいいと思うが、そういった場所というイメージで言っているということである。ただ、今、今回の提案というのは、どちらかという市民がまず主体で使っていて、ひいては観光客というスタンスなので、どちらかという市長のイメージとはちょっと違うというのがあるのかなというところであり、これからその辺は市のコンセプトとすり合わせていって、どういったものがよりふさわしいのかを検討させていただきたいと思う。

○井田 範行委員

- ・ 今、「ような」、「人が集まる」と言うが、スペイン広場という个体名を出すということは、やはりそれなりの思いが当然あると思われるので、私も何がいいのかははっきり、人が集まる場所であればいいのかなどは思うが、この辺はイメージ合わせも必要のかなというふうに感じている。
- ・ それと、駅前通の関係。これも前にちょっと議論をさせていただいたが、電停、バス停、これはすべて行政側のほうで、国でやるのか市でやるのかはちょっと別として、やるということだが、整備はそちらでやるが、今後、維持管理は誰がやると考えているのか。一番怖いのが、あってはならないことだが、例えば車両がぶつかってバス停が大きく大破したとなると、今までであれば恐らく簡単に修理できただろうが、結構恐らく、決定はしていないが、イメージでいくとかなりのお金がかかってくるのかなと。その辺の関係はどうなるか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ バス停と電停の管理の問題であるが、整備は市の一般会計で整備をして、事業者に対して無償貸与ということを考えている。なので、管理協定を結んで、使用料を取らないで使っていただくということで、この前も説明をしたが、あくまでも私どもは電停とバス停をリニューアルするということではなくて、そういう要素ももちろんあるが、利便性の向上とかで、シェルターみたいなものがやはり必要だよなということでやっているものであるが、当然、電停とバス停のものも兼ねるわけであって、一番ふさわしいのは電停は交通部に、バス停はバス事業者にお願いすべきだと考えており、今そういった協議を鋭意進めているところである。

○井田 範行委員

- ・ ということは、無償譲渡ということになると、それ以降のメンテ含めて、壊れた場合にはそれぞれのというのがイコールか。（「貸与」と入江経済部参事1級）貸与。では、車がぶつかって壊れたらだれが直すのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ その辺を相手の方と協定をするので、だれがやるのか。例えば、井田委員が御心配しているのは無保険者の場合等だと思うが、一般的には管理費の中で例えば保険対応するというのが一般例であって、それは余り特段心配している部分ではない。そこの実態、ちょっと済みません、私どももバス停と電停を管理したことがないが、管理協定の中で費用負担は、例えばどっちがということも詰めていって、保険対応、交通事故対応なので、一般的にも今、対応していると思われる。

○井田 範行委員

- ・ 私、これを聞いている部分は、要するに先ほど言った無保険者、9割以上の人は保険に入って保険で直るが、たまに車検が切れている、保険がないというので、いろいろ損害が起きた場合には、結局もうどうしようもない状況が起きたときに、電車事業者よりもバス事業者のほうが結構恐らく、これからお金が出てくると思うが、かなりのグレードのものなので、それを復元するとなると、かなりバス事業者に負担がかからないのかなという心配でこの質問をしているので、その辺、今後詰めていく中で、そういう懸念のない形でぜひ対応していただきたいと思う。

○斉藤 佐知子委員

- ・ さっき井田委員の今後のスケジュールというところをお聞きしたが、今朝の新聞には、活性化協議会が来年1月上旬に今度、市長に対して意見書を提出するというふうになっていた。その意見書をまた受けて、それでこの、一応修正原案は了承したというふうになっているが、活性化協議会のその意見書をいただくと、またこの中身が若干変わっていくというか、そういう可能性もあって、その上で、そのあとに国に申請するという流れになるのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 大変申し訳ない。先ほど原案のところの105ページが真っ白になっているが、実はここに意見書が載るものであって、先ほど説明をしなかったが、昨日、法定の協議会が開かれて、意見書で特にここを直せとか、そういう御意見はなかった。強いて言えば、指標であるとかそういったものはよいのではないかと、目標値等もよいのではないかと。ただ、今後フレキシブルに状況の変化に伴って計画を見直ししてほしいという要望をしたいということで結ばれているものであり、この協議会からの意見書で修正というのはもうない。昨日で、総会で意見書自体も承認をとっているんで、あとは単純にその意見書を、判を押して市長に出すという手続きが残っているということである。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 今おっしゃる計画の事業を追加するなど柔軟な対応を求めているということで、そうするとこの5年間で、今この計画、今回申請するのはこうだが、5年の間の中でローリングをしながらどんどん事業は増えたり減ったり、そういうことをしていくということでしょうか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 例えば総合交通の問題等は恐らく来年出てくるので、そういったものは入れなければならないし、あと新幹線の関係も新幹線機構のほうから、まだちょっと具体的な施策が新幹線機構のほうでも詰まっていない部分があって、それはできれば中活計画にも反映させてほしいということも言われている。また、これは実際、案で出ていくと、またいろんな方に見ていただいて、これも大事ではないかとか、

いろいろなことがあると思うし、どうしてもこういう計画ものというのは時点修正をかけていかないとフレキシブルな対応ができない。私どもとしては、特に3年後の新幹線の1年前と言われている、ある程度具体的に見える時期が非常に大事なのかなど。なので、その1年前、これから1年くらいあともいろいろな動きが多分出てくると思う。現時点でわからない部分。そういったことは、極端な話、毎年見直していく覚悟でやっているし、計画認定された場合は、中間年では内閣府のほうからも進捗状況の確認があるので、そういったフレキシブルな対応をしていきたいと思っている。削除があるかどうかはちょっと別として、追加なんかがあるのではないかとということである。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 一番最初に言おうと思っていたのを忘れていたが、本当にたった4人でこれだけのすばらしい資料を作成して、頑張っているということには本当に敬意を表したいとなというふうに思っている。
- ・ 中心市街地の活性化のために、まちなかに人を呼び込もう。で、まちなかの居住を推進したり、いろんな方策がある中で、人の回遊性の高いまちづくりを目指すというふうに書いている。そういう中では、交通の電車とかバス停のことが今までもほかの委員から質問が出ているが、大変そこは本当に重要で大きな部分かなというふうに私も思う。それで、電停やバス停のデザインをすばらしいものにする。それはそれで本当にいいことだと思うが、ちなみに今回のこのバスの停留所とか電車の停留所の整備事業は、この中心市街地の9基に限っては、直すとしたら申請して、その結果、交通局がやるのではなく、ここの中心市街地の担当のところで担当し、経済産業省からお金が来て、それで進めていくということによいか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 電車の停留所に特化してまず御説明するが、9箇所なので、安全地帯としては、プラットホーム数とその倍あるが、そちらの整備は市の一般会計が負担して、まず整備しようと思っている。ただ、具体的話を言うと、交通部でないと発注できないので、いわゆる委託事業ということで一般会計が企業局にお願いして入札をしてもらうという手法をとる。なので、設計等は私どものほうである程度主導してやるが、実際の工事については、施工であるとか、電停の整備というのは非常に警察の協議とかいろんな部分で難しいので、ちょっと我々ではもう無理なので、何とか交通部にやっていただくということになっている。ただ、費用負担は一般会計でやって、例えば仮に、そんな金額ではないが、わかりやすく言うと、100万円かかるとすると、45万円が国土交通省の交付金事業で来る。裏の55万円に対して、今、予定だが、有利な起債を充当していく。そうすると交付税措置が70パーセントとあってあるので、最終的な一般財源ベースでいけば、かなり少ない持ち出しになるということもあって、交通部がやっても全額交通部の負担になるということもあって、一般会計がやったほうが、国からお金が出るからいいというわけではないが、非常に市全体としては有利だという要素もあり、そのような財政的な効果もあるものやっといこうと思っている。

○齊藤 佐知子委員

- ・ すごく電停をデザインよくするというのは、非常にいいことだというふうに思うが、それはハード面のことになって、私、この委員会でも視察にも行ったりして、提言も出させていただいているが、やはり人を呼び込む、中心市街地に多くの人が入ってくるのは、電停がすごく素敵だからということ

もあるかもしれないが、例えばそれよりは電車の料金が均一料金であることだとか、そういうことのほうが、多くの人を呼び込むには大変重要ではないかというふうに思ったが、そのあたり、先ほど交通部と電停のことはハード面はいろいろお話ししているが、前に企業局の方は均一料金のことは、いや、なかなか大変で、うちだけでは難しいというお話もあったが、中心市街地に呼び込むというその観点からいったら、少しそのあたりで交通部と均一料金のあたりのお話し合いとかそういうのはないのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 一番最初にやったのが、そういう打ち合わせをした。ただ、正直言って企業会計の今の姿からいけば料金を下げることは、要は収入がなくなるわけで、その負担を誰に求めるかとかといういろんな問題があるということであり、庁内的にも電車、均一料金なのか、定額料金、例えば200円だとか100円だとかいろんな考え方があると思うが、その辺は協議はしたが、誰がそれを負担するのかという部分がなかなか一致しない部分だし、反映できなかったという実態である。

○斉藤 佐知子委員

- ・ ほかのまちでは、例えば中心市街地に来ると、その分料金が安くなって、その負担は例えばその商店街がするとか、いろんな形があるわけだが、函館は今のお話では大変難しいというのはわかった。
- ・ この中心市街地の図というか、これの中には函館市の、皆さんの所管でない企画部所管の市の駅前の所有地、A街区という、そこも一応中心市街地という中には含まれることにはなっているのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 中活エリアの中に入っている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ となると、企画部で今回その駅前の市有地のプロポーザルの審査結果をして、市のA街区に、もう既にどのようなものをつくるというのが出ていて、最優秀提案者の選考理由には、中心市街地の活性化にも寄与する施設というところを評価したというふうになっている。こっちはこっちで駅前通とグリーンプラザのほうのトータルデザインプロポーザルというのが出ているが、中心市街地のトータルデザインというのは、まさにトータルデザインで、そのあたりではこのA街区との整合性というか、そのあたりのお話は企画部とは十分にしておいて、みんなでトータルデザインでつくっていくという、そのあたりはどのように進んだのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ トータルデザインはあくまでもコンセプトであって、例えばカラーコードの統一とか素材感の統一までは現実難しいものだと思っている。また、A街区はA街区でまだ全然決まっていないので、所管の企画部とはもちろんイメージ合わせ等はしているが、まだいろんな宿題があって、まだ現時点ではっきりしていない状況であって、あと、企画部と打ち合わせをしても、事業者の意向というのがある程度反映される。それはWAKOビルの再開発なんかと同じ要素がある。あくまでも事業者にお願いできる部分はあると思う。例えば、色調を一緒にしようとかというのは。多分、そういったものは事業者も、まちづくりの一環というのもあって、皆さん一生懸命やっているわけなので、そういった打診は聞いていただけたらと思っているし、協力はしていただくと思うが、まだA街区は決まっていない

部分もあるので、今後の動向によっては、トータルデザインのほうもまだ決まっていない部分はあるので、お互いなかなか難しい部分はあるが、必要な調整なんかは当然やっていきたいと思っている。

○齊藤 佐知子委員

- ・ この中心市街地の活性化、行政がリーダーシップをとってすべてを進めていくのか、いや、そうではなくて、やはり民間の人達が主となって進めていくのか、いろんな考え方があると思う。当然、私はすべてを行政が何もかにも進めてやっていくというのではないというふうに当然思う。まだ何も具体には決まっていっていないが、中心市街地のコンセプトというのは当然一つでなければならぬわけなので、いやいや、ぜひはっきりまだ決まっていっていないのであれば、これからの中心市街地の、今回のトータルデザインのこっちのほうも、まだあくまでも案だということで、はっきりしてないと言っているの、そこと、ぜひ向こうのA街区のほうのプロポーザルのほうと、きちんとそのコンセプトは統一して、企画部とも十分お話をし、函館市の中心市街地が本当に同じコンセプトでトータルされたデザインで進んでいっていただきたいなと思っているので、よろしく願います。
- ・ それで一点、まだはっきりしていないこのトータルデザインのプロポーザルのことだが、先ほど井田委員の質問で2月22日のフォーラムまでには具体的に示したいというお話もあった。まだはっきりしていないということだが、先ほど駅前通を一番最初に優先してやっていきたいというお話で、今、アーケードをやめて、これだと街路樹を植えていくとかというふうに、たしかになっている。そういうあたりで、デザインが決定したときに、当然その街路樹を植えていくとかいろんなことになる、その商店街の方々の御理解も当然なければいけなくなると思うが、その辺の進め方としてはどのようになっていくのか。トータルデザインが実際に決まって、それで商店街の人に、みんなこれからよろしくねという話になるのか、なかなかその辺はどういう形か、ちょっとお聞きしたい。

○経済部参事1級(入江 洋之)

- ・ この度、9月補正のときにも御説明しているが、なぜこの補正予算でトータルデザインをやらなければならないかという一番の大きな理由は、まず国からどういったものを作ってほしいのか示してほしいという要請があった。それには、こういった、もうちょっときちんとしたものをつくっていかなければならないが、絵を描かなければならない。これは行政が一番できない部分である。それと、同じことが商店街のほうからも、アーケードの撤去を自分たちがやるんだけど、商店街の人達から、そうなったときがどうなるのかを市役所のほうから見せてほしいという要請があって、ある意味こういうパースのきちんとしたものを求められたというのが契機で、それで補正もお願いしているの、当然、私どもも商店街の方を対象にそういったものを御説明して、必要であれば、事業者のほうからも、まずは商店街の方とお話し合いをしたいという要請があって、それは近々、日程調整をしていこうということ考えている。

○市戸 ゆたか委員

- ・ まず、ちょっと疑問に思ったのが、この最適提案者の方は地元の方か。

○経済部参事1級(入江 洋之)

- ・ 最適提案者は、まず代表が株式会社ワークヴィジョンズで、これは東京都品川区に会社がある。また、構成員としてパシフィックコンサルタンツ株式会社北海道支社なので、本社は東京、札幌のパシ

コンさんが構成員として、2社の共同提案である。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 地元の人が提案する内容ではないなとちょっと思った。というのは、やはりクレーン、私たちはたしか産業遺産にすべきだということで撤去に反対したが、だけど、かといって、あのグリーンプラザになぜクレーンなのかという、そういうところでちょっと私も疑問に思ったので、それを聞いた。
- ・ まだはっきり決まっていないということなので、意見だけ述べておくが、この中心市街地の基本計画の中に、このグリーンプラザの整備による増加ということで58ページに、なぜグリーンプラザを整備するのかということが書かれていて、これは私も賛同するが、要するに今までは市民の憩いの場として利用されてきたが、新幹線の開業にあわせて、多くの観光客が訪れる新たな函館のシンボルとなる施設への再整備ということで書かれていて、まさにその視点でこのグリーンプラザの整備をしてほしいなというふうに思ったが、私もちょっと新聞報道を見て愕然としてしまって、意見だけ述べておく。やはりこのグリーンプラザにクレーンを建てるというのは、私は余り、ちょっと似つかわしくないのではないかなというふうに思って、意見だけ述べさせていただきたいと思う。
- ・ 先ほど市民の声、それから商店街の方たちの声は近々聞くということで、市民の方からの声は多分2月22日のフォーラムの中できっと意見が出てくると思うが、それだけでいいのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 現時点でホームページ等にもこれは全部出しているが、特にどこからも御意見はない状況で、ただ、今これに対して御意見をいただいて、これからいろいろとやっていくので、中間報告的にまず2月22日に報告したいということであって、決して意見を排除しようとかそういうことはないし、ただ、余り、どちらかというホームページに出すと、出した段階で結構来るのかなと思ったが、来たのはマスコミだけで、そういう状況であって、なので我々もフォーラムの場がせつかくあるので、あえてその段階のものを、大きい画面などで示せると思うので、そういったことをやりたいというふうに考えているところである。もちろん機会があった場合、必要であればいろんなところに行ったり、説明したり、出前講座という手段もあるので、そういったことは別に全然、嫌だとか、そういうことは考えていない。

○市戸 ゆたか委員

- ・ もし市民が、申し訳ないが、このデザインをノーだというふうになった場合は、どういうふうに、次の提案者にまたデザインを考えてもらうのか、それとも今のこの、先ほど言ったワークヴィジョンの方たちにもう一度考えてもらうのか、そこを教えてほしい。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ なかなか仮定の話では申し上げられないので、一般論で、私の個人的なもので答えさせていただく。当然、我々は行政なので、市民の方あるいは本委員会の皆さんがクレーンなんか要らないと言ったら、設置しない。それはもう当然、行政は議会の御意見と市民の御意見でやっつかざるを得ないので、できないと思う。一般論では、だが、仮定の話なので、そのときにどうするのかというのは、ケースによっていろいろなバリエーションが出ていくと思う。ただ、納期が3月31日で、審査委員会の方、6名が一定の評価をしたという事実もあるので、例えば、現実的に3月までの納期を、クレーンだけ

を否定したことによって契約変更が、恐らく契約の本旨からいって、それはできないと思う。そこだけは、行政であっても契約は民法、商法にしばられるものであり、破棄の要因にはならないのではないかと。市の判断で契約したものを、市の判断で修正して、契約破棄等はまずないというのははっきり言えると思う。

○市戸 ゆたか委員

- ・ そうなってくると、もしクレーンを、市民の声があるかどうかはちょっとわからないが、ノーだという声が多く出てきたときは、行政の責任でデザインを変えるということなのか。そこら辺がちょっとはっきりわからない。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 今、意思決定過程にあるわけである。そこで広く皆さんの御意見を聞いているのはなぜかという、我々としてもこれから事業者、我々だけではなくて審査委員も入るが、と事業者とよりよいものをつくるに当たって、例えば議会の皆さんの御意見とか、市民からの御意見、あるいはマスコミ等の報道、いろんなものをやはり参考にして事業者と当たらなければならない。なので、きょう、皆さんの雰囲気等もつかまえて事業者にきちんと言うところはあるし、私どもも審査委員になれなかった、発言権がなかったので、行政としても今いろいろ話をしているわけであって、それを公的な審査委員会の場で、それは3者が協議する場であるので、そういったところで市民の雰囲気、あるいは議会の雰囲気はこうだということを前提にお話をして、よりよいものをつくっていかなければならないということである。また、私も個人的にこの門型クレーンの扱いというのは非常に苦慮していて、あたかもこのクレーンがすべてだというような論調は、そうではない。あくまでもイベントに頼るのではなくて、屋台とかまちの倉庫なんかを活用して市民が集まるというコンセプトに審査委員の方は共感したものであって、門型クレーンに共感した審査委員はほとんどいなかったと思う。ただ、これはそういう確認をしているわけではないので、審査委員の方のやり取りを聞いて、私が勝手に思っているものかもしれない。この辺は恐らく、ここまでこういう議論になった以上は避けて通れないので、がちがちやらなければならない部分だし、そういったことで私も考えているということで御理解いただきたいと思う。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 意見をぜひ伝えてほしい。私としてというか、会派でこのデザインを見ながら話し合いをしたときには、やはりこの門型クレーンはちょっとなじまないなというふうに思っているの、意見だけ伝えていただきたい。
- ・ それと、レンガを使った歩道というあたりでデザインが書かれていて、非常にこれはいい発想だなというふうに思っている。それで、岩見沢市だったか、中心市街地を同じくレンガを使って歩道をつくったということだが、そのときに、前に折たたみのベンチの、市民がお金を提供してメッセージを書いたというのがあったが、岩見沢市はレンガ一つを市民の方が購入して、そのレンガにメッセージを書いて歩道にしたというのがあるが、踏んづけるのが嫌なので横にするとかいろいろあると思うが、そういう発想にはなっているのか、なっていないのか。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 済みません。まったく考えていなかった。

○市戸 ゆたか委員

- ・ ぜひ考えていただきたいと思う。
- ・ それで、私たち委員会の中で電停のバリアフリーだとか、折りたたみのベンチのことだとかをいろいろ提言させていただいて、それも盛り込まれて非常にうれしく思っているが、電停、バス停の色だが、非常にこのデザインで見ると白が基調になっているのではと思うが、確かに夏場は白が目立っていいとは思いますが、例えば冬場、このように真っ白になったときに、そこが電停なのかバス停なのかわからないわけではないが、何らかのポイントが必要ではないかなと私は思うが、そこら辺の色の確認をしたい。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 電停の色、確かに絵では白になっているが、これは特に審査委員会でも議論になっていない。しかし、当然デザインの中で色調というのはトータルデザインの大きな要素であるので、今後、当然、事業者との協議の中で詰めていかなければならない部分だと認識している。確定しているものではないということである。

○市戸 ゆたか委員

- ・ それでは、雪に映えるような色を希望したいと思っている。
- ・ それと私、中心市街地、今回は大門が中心だが、大門に行かないと買えない、楽しめない、そういうような事業がいっぱい今考えられているが、例えば空き店舗のところに民間の事業者が入るときに、特徴のある商売にしてもらおうとか、例えば、何なのかよくわからないが、そういう民間の人たちにも募集をするとか、そういうことは行政でないとできないのではないのかなと思うが、今の空き店舗に入るいろんな業者さん、そういう方たちにもうちちょっとアイデアを持っていってもらってということはあるのかどうか教えてほしい。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ ちょっと質問の意図がよくわからないので、答弁になっているかわからないが、私ども中活計画をつくるということに呼応して、五稜郭の方がチャレンジオフィスをつくったり、WAKOビルでチャレンジショップをつくったり、そういったもう既に民間の方は計画ができる前にいろんなことを自分たちでもやろうと取り組んでいる。まさしくこの計画というのは、そういうことが一つの1番いい部分で、なかなか民間事業というのをここに載せられない部分があって、例えば支援措置がないとやらないとかということではなくて、取り組んでいる例もあるし、例えば五稜郭の人たちがみんな一緒になってお金を出して、まちづくり五稜郭という会社もつくっているの、そういう意味では、ある意味、行政より進んでいるほうは進んでいると思う。あと、ただ、インセンティブの部分の必要があるので、ちょっと特徴のある商売のときだけ支援措置というのは判定が難しいとは思いますが、審査会を開いて、空き店舗支援の補助制度とかも、これ新年度予算なのでまだ確定してはいないが、考えており、私どもは、補助金がなくても戻ってきて商売をするんだとか、ここでやるんだっていう人が出てくるように、そういう思いも込めて、側面的な部分を含めての計画、つくった考えであり、そういった効果を見極めていきたいし、必要であれば必要なたこ入れをしていきたいと思っている。

○北原 善通委員

・ ほとんど通り一遍になるかもしれないが、申し上げる。私は、このトータルデザインの作成業務のプロポーザルの審査が出てきて、これについて思い当たるところを申し上げる。私は言うまでもなく、亀田郡湯川町で生まれて、昭和14年に函館と合併して、昭和20年に戦争に負けて亀田郡亀田村字桔梗に行き、昭和48年に函館と、この間、二度、この体で合併している男である。昭和21年、終戦の次の年から3年あるいは4年間にかけて、棒二の前でセミ売りをした。もう見事に買ってくれる。桔梗から函館まで20円である。五稜郭まで10円。そうしてセミ1匹10円で買ってもらう。要するに、虫かごに入れて、それを売らなければ帰れないわけなので、それを3年から4年売った。それだけ人が来た。とにかく人が通った。もう棒二の前に出れば、何でも売れた。そんな時代だった。それで昭和54年、議員にさせていただいた。このときだって、まだ人口が伸びている最中なので、昭和59年1月に32万2,530人までいった。なので、結婚するっていうとカネワ渡辺時計店、棒二の隣。ここは時計、宝石がばんばん売れる。向かいに日硝堂、メガネを買える。すべてが駅前に来れば何とかだった。こんな時代だった。今こういう人口がどんどん減って行って、そして、この町並みを何とか変えたい。私、はっきり言って、この名前が何で出たのかなど。このプロポーザル審査委員会の名簿がね。この人たちの関係者が反対したのは、要するにマルハンのあたり、松下グループが地上36階のマンション、これを建てるのに反対した人たちも、関係者にいた。それから、言ってみれば、ダイワハウスかな、そういうところだって、みんな函館というのに目をつける。伝統があるから、函館。しかし、地元の人が依然として実権を持っているから、ここまで努力しているんだろうと。要するに、棒二森屋のところは1番函館で地価が高かった。そういうようなところをみんながねらっている。そしてこういうのをつくった。つくった木なんか何年間あるかわからない。そういうところにどんとほかの資本が入ることだって当然あり得るだろうな。あり得るだろうな。青森を見てほしい。ツインシティの青森。青森の駅前にはしよせん新幹線が来ないだろうという発想かどうかかわからないが、当時の市長は物すごいマンションを駅前に建てた。これがコンパクトシティの始まり。ここはどうか、見ていただきたい。人口は松風町、先月11月で469人。若松町は1,310人。高齢人口は松風町で189人、40.3%。若松町は35.2%、高齢人口が461人いる。こういう形になって、人口を増やさない。昼、夜、春夏秋冬、人が動くというコンパクトシティ、これをねらってやらなければならないのではないか。それに、こういうばふっとしたありきたりのものが出てきても、これはうちの孫でも書くなと思うくらいの図柄だが、そんな感じで函館のまちを考えてるのかっていうとちょっとがっかりする。やはり地元の人たちが何かやろうという気持ちはわかるが、やはり日本なので、日本の中の企業等が来て、どんとやってもよいのではないか。そのくらいの思い切ったことを函館はできないか。函館は206の行政町がある。7つは人が住んでないので、199の行政町がある。この中で楯法華を見ても、この人口くらいの感じで、そういうところにこういう絵を描いて、時間をかけて、金をかけて、果たしてどうなのか。こういう感想である。もう湯川と合併してことしで73年たつ。亀田と合併してからは39年。それから、銭亀と合併してからは46年たつか。そんなことで見た場合に、こういう絵を描いただけで、私の生い立ちからするとすごく寂しい感じである。どんどん人があふれる。私の知り合いの議員が四国から来て、函館駅前を通ったときに、夜景を見に行くと言うので、いや、人がいないですね、いないですねって言

うので、いや、地下を歩いているんですよって言ってしまった。あとから訂正したかどうかは、ちょっとわかりしていた。やはり賑わいのある大門を再現できるように。それから、もう1つ手がある。亀田のイトーヨーカ堂、隣は長崎屋、今はドン・キ・ホーテ。あの通りは新外環状道路ができれば、どうなるか。そして、合併したそのままである。なので、旧函館と亀田と、亀田のほうが多い。12万3,400人までいったことがある。今でも多い。これを国道沿いだとか、亀田本町、昭和とか、亀田港とか、桔梗のほうからでも、ここは区域、本庁のほうに真っ直ぐ来れる。まちもある。その人たちが寄ったら大きい。そのまちまちで合併したそのままにしてるから、人がそっちに行ったらそのままである。なので、こっちに来ない。本庁が、それで駐車場だって2階建てにしたって、3階建てにしたっていいのではないか。デパート並みにしたっていいのではないか。そうして呼びつけたら、必ずこの通りだけでも賑わうまちになるのではないか。そういうこと等も考えながらまちづくりを考えていくべきだと私は思っている。コメントあれば、なければ終わっていい。

○経済部参事1級（入江 洋之）

- ・ 今の北原委員のお言葉を胸に職務に当たっていきたいというコメントをさせていただきたいと思う。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 他に発言ないか。（発言なし）
- ・ 理事者においては、本日の議論を踏まえ今後の対応を進めていただくようお願いする。
- ・ ここで理事者は退室願う。

（理事者 退室）

○委員長（松宮 健治）

- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（松宮 健治）

- ・ 事務局から資料を配付するので、目を通していただきたい。

（事務局 資料配付）

○委員長（松宮 健治）

- ・ 前回の委員会で調査することとしていた行財政改革プランについての相談だが、前回委員会では年明けに調査を行うこととしていたが、配付資料のとおり事業数も多く、複数部局に関連することもあるので、調査したい事業および質問項目を事前に事務局へ提出していただき、正副委員長のほうで集約をし、調査事業、部局、日程等の調整を行いたい。また、項目等の提出については1月7日までとしたいが、よいか。（異議なし）
- ・ 重複した項目については、また調整したいと思う。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 何を聞きたいというのは、例えば、この取り組み項目の何を聞きたいということではなくて、その中のどういうことを聞きたいというふうに出してほしいということか。

○委員長（松宮 健治）

- ・ できれば項目だけよりは、もし項目の中身までお考えであれば、それも出していきたい。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 項目だけでもよいのか。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 項目だけでもよいが、できれば中身、こういうことも聞きたいというのがあれば資料の準備等もできるということなので、できればそういう思いである。理事者を呼んで質問しても、できてないと二回、三回となるので、そういうことで。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 了解した。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 他に発言がなければ、1月7日までに提出をお願いしたい。
- ・ その他、委員から発言はあるか。（発言なし）
- ・ 散会宣言

午後12時30分散会